

F.W.N 交流会
片寄先生とキャットウォーク&スケッチ
 ～龍造寺町・空堀・松屋町界隈～



高低差のある
石積み

- | | | | | | | | | | | | |
|------------------|------------------|------------------|--|----------|------------|-------|--------------------|----------|-----------|-------|----------|
| ① いろは湯 | ② 六軒長屋 銀杏庵 | ③ 路地 | ④ 尾田酒店 | ⑤ 小谷山寶泉寺 | ⑥ 釜戸ダイニング縁 | ⑦ 古井戸 | ⑧ 萌 (HO)/ 直木三十五記念館 | ⑨ 惣 (SO) | ⑩ 煉 (REN) | ⑪ 末吉橋 | ⑫ 住友銅吹所跡 |
| Ⓐ パブデッシャロ | Ⓑ クーデリーカフェ「惣」1F | Ⓒ カフェバー楽「煉」1F | | | | | | | | | |
| TEL:06-4304-7580 | TEL:06-6762-5664 | TEL:06-6763-2066 | | | | | | | | | |
| | | | Ⓓ エクチュア からほり「蔵」本店「煉」2F
TEL : 06-4304-8077 | | | | | | | | |

新 作家の登竜門「直木賞」。その由来となった小説家・直木三十五は谷町・空堀に生まれ育ち、谷町五丁目にあったプラトン社で作家デビューを果たしました。いまも残っている迷路のような路地、急峻な坂道、直木文学のふるさとその原点。

❷ 銀杏庵(いちようあん)

戦国大名、龍造寺政家の屋敷があったとされる地、龍造寺町。

明治四十三年（1910 年）、その町の南に建てられた長屋の一軒が銀杏菴（いちようあん）です。

❸ 寶泉寺(ほうせんじ)

推古天皇 8 年（600 年）、聖徳太子の創建。蘇我稲目、小野妹子、大伴金村の娘が尼僧として寺に入った。四天王寺西門内にあったが、戦乱により焼失後、寛文 8 年（1668 年）現在地に移転。現在は四天王寺を総本山とする和宗に属する尼寺。本堂。聖徳太子製作の本尊が納められている。

❸ 直木三十五記念館(なおきさんじゅうご)

直木は昭和 9 年（1934）2 月 24 日に結核性脳膜炎で死去しました。享年 43。

文藝春秋社長の菊池寛は、直木と昭和 2 年（1927）に自殺した芥川龍之介の盟友 2 の死を深く悼み、昭和 10 年（1935）に「直木賞」「芥川賞」を創設しました。直木三十五記念館は市民参加型のミュージアムで、直木のバイオグラフィや所縁の品々を展示しています。直木の名文句「芸術は短し 貧乏は長し」。

* 直木三十五と芥川龍之介

直木三十五（本名・植村宗一）は明治 24 年（1891）、父・植村惣八、母・静の長男として安堂寺町 2 丁目（現・谷町 6 丁目交差点）に誕生しました。惣八は古着屋を営みましたが、直木の『死までを語る』によれば「店先にはぱっち（股引）二三足と汚い古着が四五枚釣ってあっただけ」「桓武天皇時代からの貧乏」という有様でした。そんな生家でしたが市電拡張でなくなると「私の生れた、も一つの小さい家は谷町 6 丁目交叉点の電車線路になってしまっている。これは大層悲しい事実だ」（『大阪を歩く』）と愛惜しています。直木三十五という奇妙な筆名は「植村の植を二分して直木、この時、三十一才なりし故、直木三十一と称す」（『私の略歴』）とあり、苗字+実年齢という安直なものでした。32 歳では三十二、33 歳では三十三でしたが、34 歳は何故か三十三のままで、35 歳以降はずっと三十五でした。晩年は「自称 35 歳」で「35 歳にしては頭髮が薄い」などと自嘲して得意でした。

* タニマチの由来

1889 年に谷町四丁目で薄病院を開業した薄恕一（すすき・じょいち 1866-1956 年）、病院内に土俵を設けるほどの相撲好きで、幕下力士を無料で治療したり、小遣いを与え、「貧乏 は無料、生活できる は薬代一日四銭、金持ちは二倍でも三倍でも払ってくれ」と言う方針を貫いたと伝えられている。地域住民から深く敬愛され、まさに直木三十五の考える「大阪 」の象徴的 物でした。

❾ 惣（そう）

長屋再生複合ショップ。明治時代に建てられた長屋で老朽化で解体、駐車場にされる寸前だったものを複合施設の第一号として再生された。

❿ 練（れん）

御屋敷再生複合ショップ。この建物は、大正末期に神戸から移築されたものだそうだからほりの第 2 号複合施設です。

江戸時代日本は有数の銅産国で、その銅の精錬を一手に担っていたのが大坂です。

住友家のルーツである泉屋では日本中からの粗銅を集積し、精錬し、銅座を通じ長崎から広く海外へ輸出していました。

❿ 住友銅吹所跡(すみともどうふきしょ)

江戸時代の大坂には数多くの銅関連業者が集中していました。銅精錬は大坂の基幹産業で、日本の生産量の約 1/3 を大坂で精錬していました。その技術力も非常に高く、銅の純度を 99% にまで精錬することが出来ました。大坂屋や平野屋など有力な業者がいましたが、中でも最大規模を誇ったのが泉屋（住友家）で、当地には住友家の店舗や住宅なども隣接していました。泉屋は、元和 9 年（1623）に大坂・内淡路町に銅吹所を開設。寛永 13 年（1636）に長堀に移転。その後敷地を拡張して、元禄 3 年（1690）には本店・居宅も同地に移転し、明治時代まで続きました。住友銅吹所には、当時の幕府高官やオランダ もよく視察に訪れたといわれています

❿ 元住友家本邸内ビリヤード場(玉突場)

明治 9 年（1876）に銅吹所が廃止された後、敷地は住友家の邸宅となりました。

明治 12 年（1879）には洋館や庭園がつくられ、ビリヤード場はその東側に建てられました。文明開化期に多く見られる「擬洋風様式」で、ビリヤード場玄関のアーチや円柱飾りは洋風ですが、壁は土蔵造り、屋根は瓦葺きで、洋風と和風とが混在しています。明治 25 年（1892）以前の建築と考えられており、独立建物のビリヤード場としては、わが国最古のもので、ちなみに日本にビリヤードが伝わったのは 1800 年代で江戸時代にオランダから長崎出島に上陸しました。現在のポケットビリヤードは 1900 年頃にアメリカから伝わったもので、明治時代はポケットの無いビリヤード台でした。